



东亚地区日语教育

日本学研究前沿文存

.....
总主编／顾也力
执行主编／陈多友

 华东理工大学出版社



东亚地区日语教育

日本学研究前沿文存

.....总主编／顾也力 执行主编／陈多友

◎ 华东理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

东亚地区日语教育日本学研究前沿文存/顾也力,总主编. —上海:华东理工大学出版社,2009. 11
ISBN 978-7-5628-2615-6

I. 东... II. ①顾...②陈... III. ①日语-教学研究-文集-汉、日②日本-研究-文集-汉、日
IV. H369-53K313.07-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 143597 号

东亚地区日语教育日本学研究前沿文存

总 主 编 / 顾也力

执行主编 / 陈多友

责任编辑 / 常海霞

责任校对 / 张 波

封面设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址: 上海市梅陇路 130 号, 200237

电 话: (021)64250306(营销部)

(021)64252717(编辑室)

传 真: (021)64252707

网 址: press.ecust.edu.cn

印 刷 / 常熟华顺印刷有限公司

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 52.5

字 数 / 1373 千字

版 次 / 2009 年 11 月第 1 版

印 次 / 2009 年 11 月第 1 次

印 数 / 1—850 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2615-6/H·859

定 价 / 258.00 元

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

顾 问:

徐真华(广东外语外贸大学教授,文学博士)

修 刚(天津外国语学院教授,中国日语教学研究会会长)

王崇梁(国际交流基金北京日本文化中心日语教育顾问)

总主编:

顾也力(广东外语外贸大学教授,中国日语教学研究会副会长)

执行主编:

陈多友(广东外语外贸大学教授,文学博士)

编辑委员会会员:

顾也力

韦立新(广东外语外贸大学教授,文学博士)

李运博(天津外国语学院教授,文学博士)

洪诗鸿(日本国阪南大学教授,经济学博士)

聂永有(上海大学副教授,管理学博士)

刘 伟(天津大学副教授,文学硕士)

全昌焕(沈阳航空学院副教授,文学博士)

叶 琳(南京大学教授,文学博士)

陈多友

丁国旗(广东外语外贸大学教授,文学博士)

代序一

国際交流基金北京日本文化センター
日本語教育アドバイザー
王崇梁

昨年(2008年)、中国で初めての夏オリンピックが開催され、大成功を収めたが、中国における日本語教育研究においても記念すべき年だったと思われる。

2008年9月、大学日本語教学研究会の主催により、「第4回日本語教育研究国際シンポジウム」が湖南大学にて開催され、中国各地や海外から約150名の日本語教育関係者が参加した。12月には中国日本語教学研究会、及び広東外語外貿大学の共催により「2008年中国日本語教学研究会及び日本語教育・日本語学研究国際シンポジウム」が広東外語外貿大学にて盛大に開催され、約260名の国内外の日本語教育関係者が参加した。開会式では国際交流基金北京日本文化センターを代表して私も祝辞を述べさせてもらった。

本シンポジウムでは「日本文学」、「日本語学」、「日本語教育」、「日本文化」、「翻訳学」、「経済」の六つの分野に分かれて、二日間に渡り、200以上の研究発表がなされた。それらの発表内容を見ると、中国における日本研究、とりわけ日本語を主専攻とする、日本語教育の現場で活躍している教師たちが携わる日本語学、日本語教育に関する研究が広範囲に渡って進められ、そして大きな成果が得られたことが分かる。

今回は本シンポジウムでなされた研究発表のうち、約100の研究成果をこのような図書の形で出版される運びとなった。本書の出版により、今後の中国における日本研究及びその推進に数多くの示唆が与えられると思われる。国際交流基金北京日本文化センターとしても本書の刊行に心からお祝い申し上げたい。

代序二

中国における日本語教育・日本研究の現状と展望

一、中国における日本語教育の現状

1. 概観

1972年の中日国交正常化をきっかけに、中国の日本語教育事業も発展の新生面を開き、日本語教育および日本学研究の社会的コンディーションも徐々に整ってきた。政治、経済、文化における交流はもちろん、日本人観光客による中国各地の観光旅行の急増も背景の一つと考えられる。

2008年今現在までの統計によると、全国の2350余の大学では、日本語教育機関として380余個の大学に日本語科が設立してある。教員数は3千人近く、日本語専攻の学生数は14万余人とされ、大学院修士課程を設置した大学は40校とのことである。また国务院学位委員会の審査により批准された博士課程を有する日本語教育および日本学研究拠点は10校もあり、中でも総合大学では、北京大学、吉林大学、外国語大学では、上海外国語大学、北京外国語大学、師範大学では、東北師範大学。他に、『二級学科』として、洛陽外国語学院、広東外語外貿大学などにおいてもそれぞれ博士学位を授与する課程を設置してあるのである。

上に述べてきた日本語学科が設けられている大学は、国、省庁、省所属の大学であり、いわば、国立・公立の教育機関である。と同時に、民営(私立)の大学や非学歴教育機関にも普遍的に日本語学科を設けているし、日本語専門学校も数多くある。例えば、広東省広州市だけを見ても分かるように、八カ校の国立・公立大学以外に、私立大学やら公開学院やら継続学院などでも、年間を通じて、なんと5000人以上の日本語学習者を募集しておる。また、毎年12月の最初の日曜日に行われる日本語能力試験の受験資格を得るために、十何万に登る学習者たちが半月以上もインターネットで列を作り、順番をまたねばならぬという光景である。当然、毎年受験票数の発行を増やしてはいるが、やはり、供給はニーズに追いつかないでいる。各地の試験場は試験日となると、いつもごった返している。まことにうれしい悲鳴を上げるぐらいである。

要するに、中国の日本語教育は範囲といい、スケールといい、全面的に拡張しつつあり、英語に次ぐ第2位になったのである。日本語教育事業は、こうも急速な発展を見せられたのは、中国と日本両国の各分野にわたる交流が盛んに行われてきたという大きな背景によるものである。こうした社会的環境がなければ、日本語教育事業の発展もないはずである。

2. 日本語学習者の分類

1.2.1 大学で勉強する学習者。

全日制大学で日本語を専門として学ぶ者(前に触れてきたように、現在中国では、約380余個の大学に日本語専門学科が設置されている)と、理科系や文科系などの専門大学で、日本語を外国語として、あるいは第二外国語として勉強する者に分けられる。中国日本語教学研究会で発表された非完全な統計によると、このレベルの学習者数は疾うに30万人を超えているとのこ

とである。

1.2.2 中学校や高校で勉強する学習者。

いわゆる外国語学校(中等専門学校、現在38ヵ所)で勉強する者と、日本語が開設されている普通の中学校で勉強する者に分けられる。日本語国際センターの不完全な統計によると、この分野での学者数は20万以上に達しているのである。

1.2.3 各種日本語学校、社会人クラスで勉強する学習者。

この人たちの多くは職工大学、放送大学、夜間大学、各政府機関の赴日人員養成訓練班、社会人を対象とする各種の日本語学校や日本語コースなどで勉強している。ほかに、テレビ、ラジオ講座について独学している人もかなり多い。いまだに完全な統計はないが、大雑把に見積もってみれば、50万はいるとされている。

つまり、保守的に見積もっても、今中国では、トータルでなんと100万以上の日本語学習者数を擁していることがわかる。

3. メタ教育の必要性

こういう事情もあって、日本語教育におけるメタ教育の必要性が目立ってきた。1980年に、中日双方政府レベルの合意により、「全国日本語教師培训班」(俗称「大平学校」)が設立され、1985年から、その発展としての「北京日本学研究センター」も設立され、以来中国のためにほぼ1500人の日本語教師と日本研究者を養成してきた。

近年来、大学募集人数の急増に従って、更に多くの大学や教育機構では日本語専門学科が設けられ、特に北京、上海、広州、東北地方などの大都市及び日本語教育の歴史が長い地域と、その歴史がまだ浅い内陸地域との間の差が大きくなりつつある。そのためのメタ教育の強化が要求されている。

4. 今後の課題

中国におけるこれからの日本語教育がどうあるべきかについて、以下の3点を重要視しなければならない。

1.4.1 量の増加から質の向上へ

中国の大学、高校、中学校、民営学校の日本語学習者の数は量的には十分である。社会的な需要から見ても、沿海地方以外の地域では、日本語専門人材が既に飽和しているといっても過言ではない。ここ3、4年の各大学の日本語学科の卒業生の就職率は一部の名門を除いて、それほど高くはない。「量は少なく、質は高く」という目標をめざして全体的に調整する必要に迫られている。

1.4.2 日本の各大学と共同で人材を育成する

これまで中国の日本語人材は中国国内だけで養成してきた。日本との教育分野における交流が広がるにつれて、中国の各大学と日本の各大学との相互交流を一層促進させる必要性に迫られている。学生の共同募集、共同育成、単位の相互認定など、交流の具現化が両国の各大学が直面する課題である。

1.4.3 単なる日本語教育から多技能型教育への転換

日本語だけで就職しえる分野は限られている。今、日本語学習者の多くは、日本語以外の専門知識も勉強したいと希望する人が年々増加している。こうした学習者の要望と社会の需要に

応えるために、中日両国の教育者は真剣に課題を捉えて、単なる日本語教育から多技能型教育への転換をめざして、教育目標、教育方針を再検討すべきであろう。

二、中国における日本研究の現状

2.1 日本研究の三段階

中日国交正常化が実現し、それ以来30年、中国における日本研究が日増しに盛んになってきた。この期間を振り返ってみれば、三つの段階に分けて、三つの大きなテーマが取り上げられてきたと考えられる。

まず、1980年代初頭から1980年代の後半まで。ちょうど中国の改革・開放の時期に当たり、特に日本の経済についての研究が盛んだった。時期的には、日本のバブル経済の最盛期と重なり、一時日本の経営、日本モデルが中国近代化のモデルだとさえ考えられていた。

もうひとつのテーマは、まさに中国の近代化と絡み、日本の近代化と比較して、中国の近代化の道とその教訓と経験を究明する研究が盛んに行われた。

以上のような特化された研究テーマ、あるいは実用主義的な研究テーマを重ねてから、特に1990年代後半から、もっと日本を相対化し、日本社会、政治、経済、文化など全面的に日本を研究する、いわゆる「日本学」(Japanese Studies)としての研究が行われるようになった。

2.2 研究方法の三段階

初期の段階は、日本の研究成果あるいはその現状を「紹介」する研究が多かった。

1980年代後半から、中国人独自の研究成果が多くなり、しかし、方法論的に見た場合、まだ日本人の「マネ」が主流のように思われる。

1990年代の半ばごろから、中国人研究者の「オリジナリティ」が現れ、いわゆる中国的な日本研究が形成し始めていた。このような日本学研究成果を奨励するために、故中日友好協会孫平化会長の意志により、1998年に、『孫平化日本学学術奨励基金』が設立され、優秀な研究成果を奨励してきた。

三、グローバルネットワークにおける機能と役割

3.1 人的ネットワーク

研究機関や学会組織の人的ネットワークを作る。現在中国における日本研究機関は100個余りあり、その内日本語教育研究機関は4分の1を占めている。日本研究の学会は40個以上あり、その内全国的な学会は16個、地域的な学会は30個ある。これらの研究機関や学会に所属している研究者や会員は10000人に上っている。

2003年8月15日に吉林大学で中国日語教学研究会会長、副会長が改選され、若返りが実現された上「会則」も修正され、今後の学会はもっと活力がつくと思われる。

3.2 情報ネットワーク

まず図書資料ネットワークの整備。中国における日本研究と日本語教育が直面している一番大きな問題はやはり図書資料の不足である。それを解決するために、北京日本学研究中心が2001年から、「中国における日本学学習・研究情報リソースの構築」という研究プロジェクトを計画した。このプロジェクトの目的は、全国の日本語図書情報のネットワークを作り、学習・研究情報リソースの共有化を図ることである。

さらに、ホームページの整備。各研究機関がそれぞれのホームページを作り、それらをリン

クした形で、情報ネットワークを作っていきたいと思う。

3.3 データのネットワーク

上の情報ネットワークと関連し、ネットワーク上、それぞれの研究機関が持っている貴重なデータベース、コーパスなどのものを、有償あるいは無償の形で公開し、データのネットワークを作っていきたいと思う。

3.4 共同研究のネットワーク

今日において、研究者個人の研究も重要だが、集団的なグループ研究がますます重要視される時代になってきている。しかも、より大きな研究テーマに取り組むために、学際的な研究がますます強調されている。そのために、研究プロジェクトを通して、共同研究のネットワークを作ること非常に重要であろう。その一例として、北京日本学研究センターが完成した「中日対訳コーパスの構築」という研究プロジェクトは、まさに共同研究の賜物である。

四、展望

4.1 研究の深化と進化

今後の日本学研究を発展させるために、より突っ込んだ研究ともしっかりとした研究方法が要求されている。

4.2 教育の普及と向上

そのような研究成果を達成するために、もっと多くの人材を育成する必要がある、そして、よりハイレベルな優秀人材を養成する教育も迫られているのである。

参考文献

- [1] 前田 綱紀：『海外の日本語教育の現状』、日本語国際センター調査研究部会研究会、東京にて、1998年；
- [2] 篠崎 摂子：「中国で期待される日本人日本語教師の役割」、第8回海外日本語教育研究会「中国における日本語教育」第2部パネルディスカッション、東京にて、2003年2月2日；
- [3] 徐 一平：「第六回国際日本研究・日本語教育シンポジウム」香港にて、『中国における日本研究・日本語教育の現状と展望』、2003年11月8日；
- [4] 汪 玉林：『日本語教育研究の現在』紙上日本語教育国際シンポジウム(1)『中国における日本語教育の社会環境のこれからと環境』、北京にて、2006年1月18日；
- [5] 宿 久高：『中国における日本語教育の理論と実践研究』国際シンポジウム『言語教育における文学の必要性』、煙台にて、2006年6月24日；
- [6] 陳 多友：日本大望会特別講演会「中国と日本のかけ橋になるために」『中国における日本語教育・日本研究の現状と展望』、札幌にて、2006年11月28日；
- [7] 修 剛：『中国における日本語教育の課題と展望』、「中国日本語教学研究会2008年度年会並びに日本語教育・日本学研究国際シンポジウム」広州にて、2008年12月13日。

編集者

2009年10月1日

代序三

日本語教育・日本学研究国際シンポ
ジウム・広東外語外貿大学にて開催

報告 佐々木瑞枝(武蔵野大学・大学院教授)

ハイビスカスの花の美しい広州で、2008年12月13日から15日の三日間にわたって国際シンポジウムが開催された。出席者260名、分科会13、座長だけでも52人、講演、および発表者はプログラムに掲載されているだけでも227人という多数にのぼる。

「中国の日本語教育学会始まって以来」(関係者)という盛況ぶりは、広東外語外貿大学と中国日本語教学研究会の共催の周到な準備によるものだろう。

基調講演は国際日本文化研究センター教授、鈴木貞美氏「日本語で文学は何を意味するのか」、京都教育大学教授、森山卓郎氏「最近の日本語文法研究の動向と展望」、天津外国語学院学長、修剛氏「中国における日本語教育の課題と展望」であった。どの講演も文学、文法、中国の動向を鋭く捉えたものであった。

文化会は文学が2分科会、言語が3分科会、経済・貿易が1分科会、翻訳比較研究が1分科会、日本語教育が3分科会、文化が2分科会と13に分かれたが、会場が廊下をはさんだ両側の教室に並んでいたため、分科会の発表から発表への移動は非常にスムーズだった。

2日目の午後は全体会議の中で「大会主題発言」と題する講演が行われ、国際交流基金の大隅氏の「日本語能力試験改革案」、北京日本語学研究中心教授、曹大峰氏「中国人学習者向けの日本語教育文法の再構築—専攻用の基礎教材の文法シラバス研究」他であり、私の講演テーマは「自然な日本語指導の工夫」—形式名詞を例に」であった。期せずして、基調講演の修剛氏、講演の曹大峰氏、そして私と今後中国で作成する教科書の重要性やシラバスに踏み込んだものとなったが、これは中国の日本語教育が学問的にも成熟し、自らのニーズにあったテキストを作成する必要性が高まってきていることに他ならない。今後の中国日本語教育の動向を見守っていきたいと考える。

代序四

中国日本語教学研究会2008年度年会
並びに日本語教育・日本学研究国際シンポジウム

(2008年12月12日～14日、中国：広州)

報告者：劉偉(大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程、参加者)

中国日本語教学研究会2008年度年会並びに日本語教育・日本学研究国際シンポジウムは、2008年12月12日から14日まで、中国の広東外語外貿大学(中国・広東省・広州市)において開催された。本大会は、「国際化視野の日本語教育・日本学研究」をテーマとし、中国日本語教学研究会と広東外語外貿大学が主催し、日本国際交流基金等諸機関の援助を得て行われた。大会には、中国内陸、香港、台湾、および日本から300人近くの関係者が参加した。大会は3日間で、12日は受付日となり、13日と14日は基調講演、主題発言と研究発表が行われた。

13日の午前中は、開会式、記念撮影の後、基調講演は、鈴木貞美国際日本文化研究センター教授による「日本語で『文学』は何を意味するか—概念編成史研究の必要性」、森山卓郎京都教育大学教授による「最近の日本語文法研究の動向と展望」、および修剛天津外国語学院大学教授(天津外国語学院大学学長・中国日本語教学研究会会長)による「中国における日本語教育の課題と展望」といったテーマで行われた。午後はまず、大会主題発言Ⅰが行われた。石塚晴通北海道大学名誉教授、徐一平北京日本学センター長・教授、卞崇道浙江樹人大学教授等がそれぞれ「十七条憲法—日本人の常識・道徳—」、「グローバル化時代と固有名詞の中訳問題(全球化时代与固有名詞的汉译问题)」、「東アジアの視野における日本近代思想」といったテーマで主題発言が行われた。休憩後、日本文学、日本語学、経済貿易、翻訳と中日比較研究、日本語教育学、および日本文化の6つの分科会に分かれて13の会議室で研究発表が行われた。その後、懇親会が開かれた。また、当日の夜は中国日本語教学研究会2008年度常務理事会が開かれた。

二日目の午前中は前日と同様に13の会議室に分かれて6つの分科会で研究発表が行われた。午後はまず、「日本語能力試験の改革試案」、「中国人日本語学習者向けの日本語教育文法の再構築」等、日本語教育学、日本語学、日本文化に関する6つのテーマで大会主題発言Ⅱが行われた。その後は閉会式が開かれた。閉会式においては、各分科会における研究発表のまとめが行われ、大会に参加した各出版社の代表も発言された。最後に、顧也力教授(広東外語外貿大学副学長)により閉会の挨拶が行われた。

本大会では、基調講演や主題発言のほか、合計180以上の研究発表が行われ、特に日本文学、日本語学、日本語教育学に関連する発表件数が多く、最前線の研究成果の発表や情報交換が活発になされた。転換期を迎えている中国における日本語教育は、修剛会長の基調講演における指摘のように、今後、中国人の立場からの、「日本語力+X」といった総合的能力の育成、また、異文化コミュニケーション能力の育成に関連する研究および教育実践が期待される。

開催校広東外語外貿大学の先生や学生方は、大会のための周至な準備、運営がなされ、大会終了後の15日には広州市内観光も案内された。なお、次回の大会は2010年に大連(中国・遼寧省)に開催する予定とのことである。

目 録

第一編 文学研究

学芸概念の近代的再編をめぐって;「文学」を中心に	鈴木貞美(2)
话语语言学理论与第一人称文学叙述	
——以分析『舞姫』『坊ちゃん』『こころ』等日语文本为例	魏育邻(17)
浅析中日文学关系	陈多友(25)
日本近代文学的“现代”转型	李 强(30)
论有岛武郎的《星座》	李先瑞(38)
平安時代物語における蓬葎(よもぎ・むぐら)の宿の話	
——姫君の琴と隠者の楽——	湯浅幸代(43)
犀星における宗教の影響と意義	
——第一の沈滞期までの創作を中心に——	刘金举(50)
从《新生》看岛崎藤村在艺术与人生之间的抉择	刘晓芳(57)
「雪月花の時」と白楽天の詩	
——『枕草子』177 段の解釈をめぐって——	於国瑛(65)
走向近代化的日本明治歌坛	张晓宁(74)
夏目漱石と錢鍾書におけるユーモアのレトリック	
——『吾輩は猫である』と『围城』との対比から——	张杭萍(79)
格雷马斯符号矩阵理论对小说《舞姫》的解读	车 洁(89)
『諸道聴耳世間猿』の人物造形	
——之巻一回を中心に——	王 欣(94)
解读井伏鱒二的小说《黑雨》的主题及艺术特色	荣桂艳(106)
解析“粹”的审美意识	
——以《“粹”的结构》为中心	徐金凤(113)
芥川の児童文学への一考察	
——『蜘蛛の糸』と『杜子春』を中心に	譚 冰(122)
山上億良と神仙思想	
——七夕歌を中心に——	张忠锋(126)
《新撰万叶集》上卷中郭公鸟的恋歌与闺怨诗	梁 青(137)
『源氏物語』桐壺に住まう后妃の形象	
——〈桐〉と〈鳳凰〉	高橋麻織(145)
魚住折蘆の個人主義 明治 30 年代のナショナルリズム	田中絵美利(152)
泉鏡花『春晝』『春晝後刻』論	
——《不可視》を紡ぎ出す力——	川島みどり(163)

第二編 言語学研究

日本語文法研究の現状と展望	森山卓郎(176)
日语的三个修辞格以及其启示	揭 侠(180)
日语定语结构「V+感觉名词」的语义特征和语法特征	
——以「V+姿」和「V+声」为例	陈访泽 马宵月(190)
日本語の否定的言語行為についての一考察	王健宜 于新华(200)
「過ぎる」の誤用分析	
——認知言語学からのアプローチ——	王 忻(216)
日中両言語の多項形容詞共起の順序について	盛文忠(225)
日本呉音資料から見る『韻鏡』の開合	全昌煥(234)
现代日语语音的标准问题分析	
——以日语鼻浊音问题为中心——	刘 伟(242)
“もの”意义辨析	王 洋(249)
完全否定と部分否定に関する表現	赵慧欣(256)
日语“物主被动”考	徐家驹(263)
日本語の「人」と中国語の“人”の自称用法の対照	白晓光(268)
关于日语敬语中的新表达方式	夏建新(277)
明治期東京語における士族・知識層女性の命令表現の考察	
——受惠表現を用いる命令表現を中心に——	陳慧玲(283)
由形式体言看句中的体的表达形式“スル”的使用	陆 洁(295)
日本書紀における中国口語漢語起源の訓読	唐 炜(300)
日本語の同音語についての考察	
——日本語能力試験語彙における漢語同音語を中心に——	呂 栗(312)
日本語のテイルと連体数量詞	
——語用論的アプローチ——	刘晓娟(321)
日本語学習者は動詞とマーカーをどのように結び付けていくか	塩川絵里子(329)
从日语接续助词、副助词看词汇情感意义	何彩莲(336)
「にーが」構文の二格の意味役割分析	赵 蓉(345)
中日両国のあいさつ言葉の相違	姜 岩(354)
日语会话中性别用语的变换及其语用意义	李惠清(359)
中日词汇中同字逆序词的形成原因	翁耀东(365)
中国人日本語学習者の要約文における原文残存・パラフレーズの考察	
.....	曹红荃 赵 刚(374)
日语语音辨析错位的成因及对策	刘小荣(385)
ポライトネスの視点から見た断り表現における中日対照研究	
——意味公式の分析方法を通じて——	文钟莲(391)
日本語教育における「時候のあいさつ」の取り扱い	
——文化言語学の立場から——	林娟娟(402)

「ずいぶん」和“非常”的修饰特征·····	赵冬茜(407)
关于「あける」和「ひらく」异同的探讨·····	冯明舒(413)
关于「～のだ」形式的教学·····	郭颖侠(420)
話しことばにおける改まった場面の一考察·····	王宝锋(427)
日本語倒置文の図一地論·····	罗明辉 郭 洁(434)

第三編 教育学研究

「自然な日本語」—自然なコミュニケーションとは何か·····	佐々木瑞枝(440)
刍议高校专业日语教材编写之实施纲要·····	顾也力(447)
作文授業におけるブレンド型形式の活用·····	叶淑华(449)
和歌俳句教学的若干体会与思考	
——兼谈素质教育·····	丁国旗(456)
试论语言学课程教学的三个层面	
——以日语概论课教学设计为例·····	翟东娜(460)
日语专业毕业论文改革的探讨·····	王 信(466)
日本語教育で求められる日本語コミュニケーション能力	
——中国と日本の大学教員が考える日本語コミュニケーション能力——·····	中川良雄(471)
待遇表現の習得における中国人日本語学習者の問題点及びその対策·····	毋育新(478)
語学教育に有効なWEB教材の開発·····	伊津信之介(489)
城山三郎『素直な戦士たち』論	
——行き詰る英才教育——·····	徳永光展(497)
学習者が生活する文脈に即した初級教科書の作成	
——香港での学校生活を日本語で送れるようになることを目指して——	
·····	北上哲子 伴野崇生 鈴木教子 周志衛(507)
跨文化交际与商务日语教学·····	潘幼芳 周林娟(519)
教科書中の似て非なる物の实例分析·····	赵 平 浦田千晶(525)
关于敬语指导教育的思考·····	崔亚蕾(533)
中国人上級日本語学習者による新聞コラムの要約文の誤用分析·····	安明姬(540)
日本語教育におけるオノマトペ	
——日本語のオノマトペから中国語・韓国語への翻訳を中心に——·····	黄 慧(548)
毕业论文管理系统的思路与实践·····	刘劲聪(558)
台湾地区大学日语专业的特点分析及思考·····	刘肖云(562)
会話テキストの現地化とその教授法·····	魏晓艳 平川美穗(568)
多様化する日本語教育の中で日本語学校に求められるもの	
——日本語学校進路相談室ケーススタディ——·····	石井稚恵(575)
中国の留学生から見た外来語教育について·····	徐 勇(583)
21 世纪日语专业本科课程设置与人才培养·····	周 蕊(593)
聴解過程におけるストラテジーの使用実態	
——非日本語専攻学習者を対象に——·····	韩兰灵 刘玉琴 赵圣花 颜 冰(598)

中国人の日本語学習者によく見られるアクセントの誤り傾向及びその原因への考察	朱丽颖 鲍德裕(612)
テオクの「状態持続」の扱い方	
—中国で使用されている初級教科書における例文調査から—	高井曜子(620)
中国の大学の上級日本語学習者におけるライティング意識	
—アンケートおよびインタビュー調査の分析を中心に——	刘 伟(629)
日本語会話教科書における「行動展開表現」の扱いに関する考察	
—「場面」と「当然性」の観点から—	伴野崇生(639)
言いさし表現における中国人日本語学習者の習得状況についての一考察	
——「依頼」・「誘い」・「断り」の場面を中心に——	李晓博(649)
企業研修生の日本語教育に求められるもの	
—アンケート調査を通して—	井尻史子(663)

第四編 思想文化研究

十七条憲法—日本人の常識・道德—	石塚晴通(670)
中国人研究日本的一部里程碑式的奇书	
—周佛海、周幼海父子的《日本概観》评介	徐 冰(679)
小泉内阁的政治特点	邵建国(691)
日本民族扩大性格初探	卢 丽 祝大鸣(697)
日语专业大学生如何看日本	
—从短期旅日报告谈起—	张继彤 卢 涛(704)
司馬遼太郎の台湾論	
——「台湾紀行」を中心に	刘曙琴(711)
近代日本の政治家与日本の文字改革	
—以原敬为中心	陈月娥(716)
武士の発生と台頭について	王超伟(722)
岡崎义惠の“日本文学”学科対象辨析	皮俊珺(728)
周作人の日本認識	周宜筠(733)
日本人の先輩意識に関する考察	闫雪雯(738)
“食色性也”之于日本	魏丽华(745)

第五編 翻译学研究

古池,蛙纵水声传	
——一词加一句形式的俳句翻译——	金 中(752)
「悔しい」的意义认知和汉语对译选择	李东杰(758)
漢詩の日本語訳におけるレトリックの変化	闫可卓(767)
鲁迅的日语与日本文学翻译	林师敏(775)

第六編 経済研究

経済転換期における若者の起業家精神

——日中比較をめぐって 申淑子(780)

中国における日系企業の本国式経営システムの受容について

——現地企業の経営パターン現状を中心に—— 杨 晔(788)

浅议日企求职中的自我分析 张长安 卢 磊(794)

連携を通じた中小企業の自律化

——アドック神戸 10 年間の歩みから—— 关智宏(802)

跋 (822)

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

中国大百科全书出版社出版

第一編 文学研究